

I 2014年版 茨城県の結核統計年報のポイント

- 新登録結核患者数387人、罹患率（人口10万対）13.3は、昨年に比べて幾分増加し県の目標値（罹患率11.0以下）におよばない。
全国19,615人、罹患率（人口10万対）15.4
 - ・ 2013年県382人、罹患率（人口10万対）13.0
全国20,495人、罹患率（人口10万対）16.1

- 高齢者の罹患率が高く、新登録結核患者の内60歳以上の占める割合が67.2%である。また、60歳代の罹患率（人口10万対）が11.9で、70歳以上は38.5と年齢階級別罹患率が高い。全国60歳以上71.5%
 - ・ 2013年県67.8%（全国71.2%）

- 外国人の結核患者が多く、新登録患者中に占める外国出生患者の割合が全国よりも高い。県7.5%（全国5.6%）
 - ・ 2013年県7.9%（全国5.2%）

- 潜在性結核感染症（LTBI）新登録患者数は昨年に比べて増加した。
県160人（人口10万対）5.5、全国7562人（人口10万対）6.0
 - ・ 2013年県119人（人口10万対）4.1、全国7147人（人口10万対）5.6

- 発病から初診までの期間が2ヶ月以上経過している割合は、昨年に比べて増加が見られた。県23.9%（全国18.8%）
 - ・ 2013年県12.8%（全国18.1%）

- 年末総登録結核患者中病状不明割合は全国よりも低く、昨年に比べて減少した。県19.9%（全国21.4%）
 - ・ 2013年県28.1%（全国23.3%）

- 結核の治療状況に関しては「PZAを含む4剤の処方」による割合が昨年に比べて幾分減少したが、全国を上回っているため適正医療が浸透している。県85.7%（全国83.8%）
 - ・ 2013年県89.6%（全国83.0%）